

令和8年度長崎県少年剣道人口調査がまとまりましたので
ご報告申し上げます。

この調査にあたりまして県剣道連盟の事務局をはじめ各地区の剣道協会事務局、
各道場の先生方のご協力に深く感謝申し上げます。

1 昨年との比各表

		本年度 令和8年	昨年度 令和7年	差異	平成22年	差異	平成26年	差異	平成30年	差異
①道場数		101	109	-8	189	-88	164	-63	172	-71
②人口	小学男子	549	559	-10	1,416	-867	1,001	-452	950	-401
	小学女子	329	350	-21	668	-339	479	-150	481	-152
	小学合計	878	909	-31	2,084	-1,206	1,480	-602	1,431	-553
						0		0		0
	中学男子	482	485	-3	781	-299	721	-239	614	-132
	中学女子	250	326	-76	354	131	381	104	308	177
						326		326		326
	中学合計	732	811	-79	1,135	-403	1,102	-370	922	-190
						0		0		0
	小中男子	1,031	1,044	-13	2,197	-1,166	1,722	-691	1,564	-533
	小中女子	579	676	-97	1,022	-443	860	-281	789	-210
						0		0		0
	小中合計	1,610	1,720	-110	3,219	-1,609	2,582	-972	2,353	-743

地域別前年度比較表と道場数が一致していないのはこちらの本年度道場数には部員0名の道場は含まれておらず、
地域別前年度比較表には「休部道場」も含まれていいます。

2 人口変化の内訳

① 人口変化の内訳

今年も例年にもれず少年剣道の人口が110名減少しています。
特に今年は女子剣士の減少が大きく97名(110人中)を占めています。
その中でも中学の女子剣士の減少が大きく76名(97名中)となっています。

地域別減少を見てみると
特にファーストが南島原地区の15名減少。 続いて諫早の13名。 3位の大村10名となっています。
(3地区で38名減少・昨年は57名の減少)

逆に増えた地区は佐世保地区と対馬地区で3名の増員です。

② 道場数から見た変化の内訳

道場数は8道場減少し、部員0名の道場が3道場ありました。
部員数0名道場も含め部員数20名以下の道場が78道場あり、全体の77. 2%(78道場/101道場)を占めています。

逆に20名以上の道場は23道場あり、20～29名:15道場・30～39名:6道場・40名以上が2道場となっています。
部員30名以上の道場は下記のとおりです。

真崎(諫早):51名・相浦(佐世保):41名……………以上が40名以上(2道場)
翔雄館(長崎):39名・真津山(諫早):38名・黒髪(佐世保)・長与(西彼):35名
大村中央(大村):31名・志成会:30名……………以上が30名以上(6道場)

3 所見

(1) 増員の施策

上記のようにまた今年も110名の部員が減少しました。人数に換算しますと1道場約1名の減少となります。

前回増員の施策として次の案を提示した

- ① 入園児、入学時に剣道の良さを具体的にアピールしたチラシを配布して
加入を促す。
- ② ご父兄の方及び剣士諸君がお友達に剣道の良さをアピールし加入を図る。
- ③ 繰返しの体験会の実施しにより、興味を持たせる。
- ④ 入部した子供たちを辞めさせない努力をする。

行きつくところこれらの施策を地道に各道場がやっていくしか方法はないのではないかと思います。

(2) 提出していただいた部員の入部・退部の調査及び総人口調査について

今回は各道場から提出していただいた小・中学の入部の数及び退部の数・その差異
及び総人口前年比表について考えてみることにします。

① 各道場より報告された小・中学の入部の数及び退部の数・その差異について

※ 各道場の報告がどのような基準で記載されたのか定かではありませんが
次の方法で記載されたものとして考えます。

イ. 小学生の入部・退部 : (入部) ・ 小学生の新規入部 → (退部) ・ 小学卒業に伴う小学生退部

ロ. 中学生の入部・退部 : (入部) ・ 小学生卒業後の持上り入部 → (退部) ・ 中学卒業に伴う中学生退部

- ・ 中学に入ってからからの入部
- ・ 中学生中の中途退部

	入部		退部		差異		
	小	中	小	中	小	中	計
令和8年度	224	108	147	226	77	-118	-41
令和7年度	235	115	128	213	107	-98	9
変化	-11	-7	19	13	-30	-20	-50

② 総人口前年比表より抜粋

(小学卒業・中学入学・中学卒業時の変動)

	小学6年生			中学1年生			中学3年生			中体連報告中学1年生		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
令和8年度	121	66	187	169	72	241	149	86	235	39	15	54
令和7年度	125	60	185	173	91	264	152	117	269			
	-4	6	2	-4	-19	-23	-3	-31	-34	39	15	54

(検証1) ① 各道場より報告された小・中学の入部の数及び退部の数・その差異について

令和8年度小学生入部人数＝224名。対し、中学生退部人数＝226名。

小学生退部人数＝147名。対し、中学生入部人数＝108名

☆ 上記より、本来であれば2名の減少で終わったはずですが、小学校を卒業する時期に小学卒業後に退部し、剣道部を離れていくケースが生じている結果となっています。

★ 小学生退部＝147名。中学生入部＝108名。差異＝－39名

計算上39名が小学卒業時退部した計算となります。

(中学生になり新たに入部した生徒もいるとすればその人数も退部したものと考えられます)

(検証2) ② 総人口前年比表による抜粋

総人口前年比表によれば令和7年に6年生だった部員が中学1年に進級した時の部員は

令和7年小学6年生＝185名。令和8年中学1年生＝241名

となり、56名の中学からの入部となります。

中体連報告の令和8年度中学1年生の人数＝54名とみると中学1年生の増員に匹敵します。

(検証結果)

(検証1)と(検証2)を比較した場合数字が異なっています。

従って(検証2)をもとに考えていきたいと思います。

③ 小学生の各学年別の動向

下記の表は令和7年時の小学年が令和8年時には1学年進級した場合との比較をしたものです。

	幼稚園以下			小1			小2			小3		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
令和8年度	26	9	35	48	26	74	52	48	100	82	58	140
令和7年度				27	17	44	31	41	72	58	48	106
差異	26	9	35	21	9	30	21	7	28	24	10	34

	小4			小5			小6			累計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
令和8年度	110	60	170	110	62	172	121	66	187	549	329	878
令和7年度	99	50	149	97	68	165	122	66	188	434	290	724
差異	11	10	21	13	-6	7	-1	0	-1	115	39	154

上記の表から6年生の1名減少の他は各学年増員となっておりその累計は154名の増員となっています。

④ 中学生の各学年別の動向

下記の表は令和7年時の中学年が令和8年時には1学年進級した場合との比較をしたものです。

	中学1年			中学2年			中学3年			累計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
令和8年度	169	72	241	164	92	256	149	86	235	482	250	732
令和7年度	125	60	185	173	91	264	161	118	279	459	269	728
差異	44	12	56	-9	1	-8	-12	-32	-44	23	-19	4

上記の表から中学2年生の8名減少・中学3年生の44名減少・中学1年生のみ56名の増員となっており、その累計は4名の増員となっています。

⑤ 総括

令和7年度の中学3年生の卒業生は、男子152名・女子117名・合計269名となっています。

③・④表から増員した部員は、158名。従って増員の158名より卒業人数259名を差引いた場合、111名(実質110名の減少)となります。

これらのことから減少の原因は、【中学卒業部員の分の入部対策がないので部員が減少していく】という結論に達します。

上記のことから、今後の対策として【毎年、中学3年生の人数の部員と同等の新入部員を確保する】ということが最重要課題といえると思います

以上、令和8年度の人口調査の報告とします。

例は8年8月26日(水)

普及委員会 荒木純司